

多様性のその先

本日は、みなさんの平成30年度、最後の登校日となります。この1年間、私は始業式や終業式、入学式や卒業式、行事毎にみなさんの前でお話しする機会がありました。その時、「多様性」について幾度もお話ししてきたことを覚えてくれていたらうれしく思います。そして、みなさんは「香風高校には多様な生徒がいる」ことを、日々実感してきたことと思います。今日は、1年間のまとめとして、「多様性のその先」についてお話をしたいと思います。

これまで私は、香風高校はひとりひとりが違っているからこそ、学校生活を通して、

- ・自分自身を理解すること
- ・他人のことを理解しようとする
- ・自分を大切にするとともに、相手を大切にすること

を学んで欲しいというお話しをしてきました。多様な価値観の人々が自分の意見だけを主張すれば、集団はバラバラになり、わがまま勝手があふれ、居心地が悪い集団になります。授業中のスマホ使用がその例です。また、自分の意見を言うだけで相手の意見を聞かない、違った意見を合わせて新しい答を探そうとしないならば、「多様性」が持っている豊かさは実現できないことになります。

先日の新聞に、イー・ウーマン社長の佐々木かおりさんという方の発言が紹介され

ていました。それは、「ダイバーシティ（多様性）の目的は、多様な人の視点や知恵が集まり、より良い成果を出すこと」という内容でした（神戸新聞 平成31年3月11日の「識者の視点」より）。

「多様な生徒がいる」だけでは、香風高校での学びは深まりません。今日の話のテーマである「多様性のその先」にあるのは、みなさんひとりひとりの多様な視点、体験、個性を集め、プラスに活用することで、学校生活がもっと楽しくなり、将来の夢に向けてしっかりと学ぶことができる学校にしていくことです。そんな学校を、教職員だけでなく生徒のみなさんも一緒になって、作っていきたいと思います。これが来年度に向けての私の抱負でもあります。

今日は、これまでみなさんにお話ししてきた「多様性」について、私自身がこの1年を振り返る機会となりました。みなさんも、自分の1年間を振り返り、「4月からこんな学校生活を送ろう」という抱負を春休み中に定め、新学期に元気に登校してくれることを願って、後期終業式の式辞とします。

平成31年3月22日

兵庫県立西宮香風高等学校

校長 石川 照子